

## ～ことばをはぐくむかわり～

より効果的なことばがけ～インリアルアプローチを通して～

### ●INREAL（インリアル）アプローチとは

子どもと大人が相互に反応し合うことで、学習とコミュニケーションを促進しようという意味です。

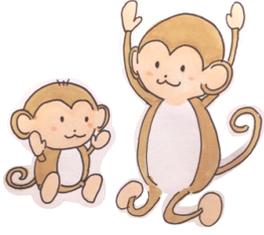
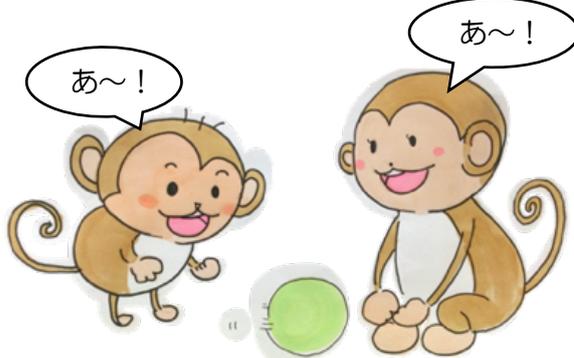
また、関わり方の具体的手がかりとして、大人のとるべき基本姿勢の SOUL や、ことばがけのモデルとしての7つの言語心理学的技法があるので、それらをご紹介します。

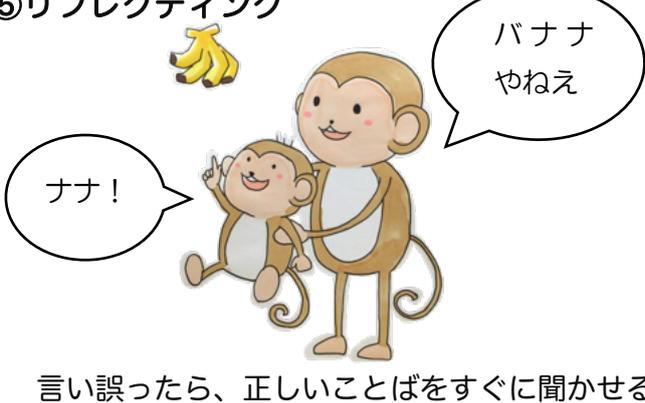
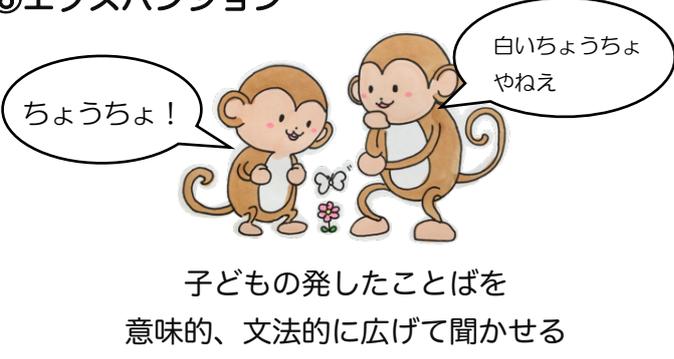
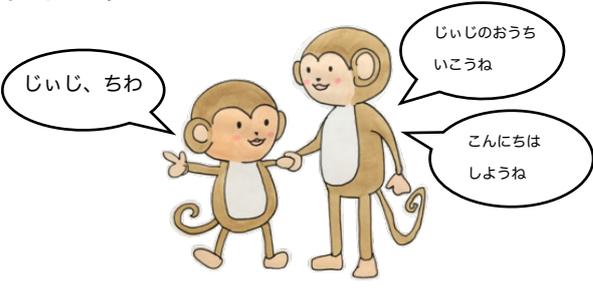
### ●SOUL とは～大人の基本姿勢（関わり方の手がかり）

Silence（静かに見守ること）      Understanding（深く理解すること）

Observation（よく観察すること）      Listening（耳を傾けること）

### ●7つの言語心理学的技法・・・効果的なことばがけ

<p>①ミラリング</p>  <p>こどもの行動をまねる</p>	<p>大人が反応してくれる存在であると気づいてもらう。 自分の動作・行為が他者に与える効果や意味に気づく。</p> <p>（例）こどもが手を挙げる→おとなも手を挙げる こどもが手を叩く→おとなも手を叩く</p>
<p>②モニタリング</p>  <p>子どもの声や音、ことばを真似る</p>	<p>自分の音声が他者に与える効果や意味に気付く。 こどもへの共感や理解を知らせ、コミュニケーションの成立を図る。</p> <p>（例）子どもが「あー！」と言う。 大人もすぐに「あー！」と復唱する。</p>
<p>③パラレルトーク</p>  <p>子どもの行動や気持ちを代わりにことばにする</p>	<p>子どもの気持ちや行動に共感することで、コミュニケーションしたいという意図を伝える。 気持ちを代弁することで「ああ、そういえばいいの か」と言葉と行動をつなげられる。</p> <p>（例）こどもが頭をぶつけたときなどに「いたいいたい やったね～」などのようにこどもの気持ちを代弁する</p>

<p>④セルフトーク</p>  <p>大人の行動や気持ちをことばにして聞かせる</p>	<p>コミュニケーションしたいという意図を伝える。 言葉の意味と行動をつなげる。</p> <p>(例) ごはんを食べた後に「おなかいっぱい」と言ってみせる。 お風呂のお湯に手を入れたときに「まだぬるいみたい」など言葉を添える。</p>
<p>⑤リフレクティング</p>  <p>言い誤ったら、正しいことばをすぐに聞かせる</p>	<p>学習途中のこどもの間違いをとがめないで、正しい言葉への気づきを促す。 (発話意欲が下がらないようにするため)</p> <p>(例) 子どもがバナナを見て「ナナ」と言った →「バナナやねえ」とすぐに大人が正しく伝えた上で、子どもには言い直しをさせない。</p>
<p>⑥エクспанション</p>  <p>子どもの発したことばを 意味的、文法的に広げて聞かせる</p>	<p>発話内容への理解を示すとともに、意味的・文法的な学習を促す。</p> <p>(例) 子どもがちょうちょを見て 「あ、ちょうちょ!」と言う →「ほんまや、ちょうちょ飛んでるねえ」 「白いちょうちょやね」など 「飛んでいる」や「白い」などの意味を付け加えて返す。(長いと難しいので、自発話+単語ぐらいが目安です)</p>
<p>⑦モデリング</p>  <p>子どもに新しいことばのモデル(使い方の例)を示す</p>	<p>正しい文章にして聞かせてあげることで、文の構造や言葉の使い方などを知らせる。</p> <p>(例) こどもが「じいじ ちわ」という →「じいじのおうちにいこうね」 「こんにちはしようね」と正しい文章にして返してあげる。</p>

技法の内容自体は、日頃の生活の中で自然とされていることばかりだと思います。

ただたくさん言葉がけをする、というより、遊びや自然な関わりの中で、**お子さんの興味や注目しているものに合わせて**関わっていくことがインリアルの基本姿勢です。ぜひ試してみてください!